



Est. 1912

まこと館だより

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



「完全食品の是非」

外国人旅行客のニュースが多い。美食の国、フランス人の記事を読んだ。曰く「あまりの美味しさに母親を連れて来た」目当ては「ラーメン」で「完全食品」だそう。ラーメン目当て？それもフランスから？

多くの場合、塩分、脂質が多くでんぷんも過多、生活習慣病の敵と目されるラーメン。無類の麺好き、とりわけラーメンは好物だが、嚼るときに罪悪感が伴うこと常で「完全食品」とは程遠い。ところがこういう主張である。

しっかり煮込んだチャーシューは消化の良いたんぱく質であり、メンマやネギは繊維質に富み、海苔にはミネラル類が豊富だ。塩分が敵とされるスープに至っては、魚介類、肉・ガラ、野菜などふんだんな食材から丁寧に抽出された出汁は至宝の芸術品、炭水化物も摂れるので「完全食品」となるらしい。

なるほど、バターなどの乳製品を多用するフランス料理、一皿ずつ料理を食すスタイルと比べると、どんぶりに全てが入った「完全食品」というのも頷ける。罪悪感が少し減ることの是非や如何に。

(高齢事業本部 本部長 旭 博之)



お知らせ

高齢事業本部 至誠ホーム相談役 橋本富美子先生

(橋本正明前理事長 ご母堂様)

令和 6 年 8 月 17 日に 103 歳 5 か月にてご逝去されました。

富美子先生は、創設者稲永久一郎爺の四女として至誠学舎立川の法人、そして至誠ホーム（高齢事業本部）を長年支えて下さっておりました。

昭和 26 年立川市に養老施設至誠老人ホームを開設以来、橋本良市先生とともに理想とする老人福祉実現のために尽力され、平成 4 年に施設長を退任し、至誠ホームの相談役として職員研修などに携わって頂いておりました。また、平成 14 年には勲六等瑞宝章を受章されました。

富美子先生が築いた多大な功績に深く敬意を示すとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

理事長 稲永 勝行



児童事業本部

暑い。とにかく暑い。毎年更新されていく気温の上昇、さらにゲリラ雷雨の多さや南海トラフ地震注意、台風など、最近の異常気象や災害への警戒は高まる一方であり、その上コロナ感染やマイコプラズマ感染の追い打ちも重なり、夏の生活において深刻な問題となってきた。異常な暑さには、エアコンを利用し涼しい環境を提供しながら、かしのきホール（多目的ホール）で、卓球やピアノなど様々な活動を提供し、子どもたちの体力の維持・増強、免疫力向上、そしてなによりストレスの発散に努めることができた。この夏は、宿題をやる会、ボーイ・ガールスカウトのデイキャンプ、バンド部主催の楽器に触れよう企画なども実施した。その他、旅行行事としてはホームごとに計画し、学園の別荘「陽美・勝浦の家」への臨海行事を実施し、なんとか夏の思い出作りも行うことができた。また念願のカンボジアツアーを5年ぶりに実施し、高校生5名と職員3名がカンボジアの小学校や児童養護施設での交流や観光など貴重な体験をすることができた。この法人・施設には恵まれた資源や経験、環境が揃っており、改めて「すごいぞ！学園！」という感謝と誇らしい思いがあふれてきた。今後も子どもたちのよりよい生活と未曾有の課題に対してこの資源を最大限に生かしていきたいと思う。ありがとうございます至誠学舎立川！ありがとうございます至誠学園！これからも大切にこの施設を運営していきます！（至誠学園 施設長 山田俊一）

保育事業本部

当園夏祭りは地域の親子にお声掛けし、園児親子と共に楽しんでいただいた。模擬店はヨーヨー釣り、輪投げ、ボーリング、かき氷、年長児が園で収穫した野菜販売の八百屋さん、等々。デリさんはチョコレートバナナ、フライドポテト、フランクフルト、焼きそば等。職員と年長児が協力して来場者に楽しんでいただいた。初めての企画は小学1年生から6年生までが集合したAZUMAフェスティバルの開催。野球・サッカーの合宿で不参加の連絡も入ったが、70%の参加率で大いに賑わった。退職職員も参加してくださり、成長した子どもたちとの再会を楽しんだ。また、東町自治会のお祭りにヨーヨー釣りとジュース類で出店。準備中に訪れた卒園生がタイヤの水運びを手伝う光景に、周囲の人から「さすが至誠さんだね。」と声をかけていただいた。その声に、「うちは至誠第二だった。」「うちは至誠いしだだった。」と至誠を自慢する大人の声が上がっていた。地域行事への参加は法人の顔となる。今後もファイトある職員と共に、地域に根差した保育園でありたいと思う瞬間であった。（至誠あずま保育園 園長 霧田清江）

高齢事業本部至誠ホーム

国分寺市から委託を受けた高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターもとまちは、国分寺駅徒歩圏内の公設民営の施設（「さわやかプラザもとまち」）の1階にあります。同じ1階には施設の管理者で我々職員が長年お世話になっているNPOあおぞらさん運営のレストラン、2階には至誠ケアセンターもとまち（デイホーム）があります。また、3～5階には近隣の地域住民が趣味活動などの集まりに利用できる大小のスペースが多く確保されています。

このような環境の中にある包括もとまちな窓口には日々、多くの相談者が来訪されます。相談内容は介護保険の申請やサービスの利用方法などが多くを占めますが、昨今、高齢者ご本人の相談に限らず、同居の家族の障害や世帯全体の経済面などに関する相談が増えています。また、件数は多くはありませんが高齢者の虐待（DV含む）に関わる相談なども増えています。

職員一同、どのような相談であっても法人の理念である「まことの心」を大切に取り組みんでいます。（至誠国分寺ケアセンター長 長畑達也）